

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ケアネット海老名地区第四特養	階数	地上3階
建設地	海老名市社家初雁502番ほか5筆	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	199 人
気候区分	地域区分	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年10月 予定	評価の実施日	2013年 8月4日
敷地面積	5,750 m ²	作成者	入江三宅設計事務所
建築面積	1,931 m ²	確認日	2013年 8月5日
延床面積	5,246 m ²	確認者	入江三宅設計事務所



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

S: A: B+: B-: C:

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

参照値: 100%

建築物の取組み: 74%

上記+ 以外の: 74%

上記+: 74%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.9

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項

総合	その他	
計画地周辺の立地は北西に位置する小学校を除けば、ほぼ農地である。それらを考慮し、外装は派手な配色を避け、周囲に馴染むデザインを心がけている。建物配置は容易な交通アクセス、風向きなどを考慮し、県道に対して平行配置としている。また、環境の配慮として、太陽光の直射緩和を意識し、4周にバルコニーを設け、また、雨水利用もを行っている。	0	
Q1 室内環境 居室、共同生活室など、施設利用者が多くの時間を過ごす場所にはなるべく大きな開口部を持たせ、自然換気・採光を効率良く行っている。また、建物内の喫煙スペースを限定するなど、空気の流れを考慮した換気計画とし、より良好な室内環境の向上に努めている。	Q2 サービス性能 建物内の計画は、十分な広さの確保やバリアフリー化など、高齢者に対して十分に配慮した計画としている。また、従業員の動線の明確化・通信手段の多様化を行い、サービス性能の向上を図った。	Q3 室外環境 (敷地内) 地盤レベルの外構計画では、可能な限り緑化を行っている。また、近隣小学校の児童達と交流を図ったり、その他催しが行われるスペースとして、敷地南側に大きな広場を設けている。用途を意識し、良好な室外環境の整備を心がけている。
LR1 エネルギー 2Fに100人強の収容が可能なホールを設け、トップライトにより自然エネルギーの利用を図っている。また、設備システムの効率化も意識し、エネルギーの有効利用を行っている。	LR2 資源・マテリアル 節水性の高い衛生器具の採用及び、雨水再利用設備の導入により、水資源の保護を図っている。	LR3 敷地外環境 容易な交通アクセスを考慮し、車両の出入口を2箇所設け、風向きに対しても、長方形の建物を南北軸に配置している。また、屋外照明は、光害対策ガイドラインの基準の過半を満たすなど、良好な敷地外環境を目指している。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと。評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される。